

【3】赤崎地区ってこんなまちです

(赤崎地区の紹介)

赤崎地区とは、佐世保市の市街地から少し北側に位置する、赤崎町・小島町・鹿子前町のことをいいます。

赤崎町は、昔は赤崎山と田畑に囲まれていて、市街地への交通は市営船に頼る不便な場所でした。昭和8年に始まった市の交通船事業は、昭和37年12月まで続いており、赤崎～川の谷～市営棧橋間(万津町)を船が往来していました。市営バスの運行は、昭和13年12月の西小島から天石(現在の天石上海楼手前赤崎側)までが始まりで、昭和29年7月に俵ヶ浦へと延長されました。その後、昭和44年10月のSSKバイパス線の開通によって、市街地への利便性がよくなりました。



小島町は、眼下にSSK(佐世保重工業)の船台と船渠を見渡すことができる山裾の斜面地に、住宅が密集しています。戦前から海軍工廠で働く人たちが定住されたこの町には、海軍工廠教習所宿舎がありました。現在の第4ドック北側の、バス通りに沿ってのコンクリート塀は軍機保護のためといわれており、他にも戦火を避けるための防空壕、長坂町へ通じる隧道工事跡が見られるなど、歴史を語る証が残っています。公民館敷地内に小島明神様、入口には青年団倶楽部の「石碑」が建っており、戦場へ出征される兵士の皆様はこの地より出立されたそうです。

鹿子前町は、昭和初期頃は山口村と呼ばれていましたが、昭和33年の町制からは現町名が使われるようになりました。昭和16年に始まった太平洋戦争中は鉄道線路が引かれていて、現鹿子前ストア前から現公園に貯木するため二画の海水の溜池があり、その木を汽車により運搬していたそうです。戦後間もない時期は、バスに乗るために日野峠が天石まで歩いていかなければならず不便な所でしたが、昭和31年に完成した石岳から鹿子前までの観光道路や、昭和56年の新鹿子前トンネル改修工事によって市街地までの交通が便利になり、マンションや一戸建て住宅も増えています。

このような私たちのまち赤崎地区。今では西海パールシーリゾートや九十九島を望む各展望所にたくさんのお客さんが訪れる、魅力溢れるまちです。

(赤崎地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



(赤崎地区“わがまち自慢”)

赤崎地区の“自慢”の一部を紹介します。

◎景色がいい・夕日がきれい (九十九島・佐世保湾)

昭和30年、第18番目の国立公園として西海国立公園が誕生し、その中心となったのが九十九島です。

美しい島々を見るため、たくさんの観光客が訪れており、その出発点となっています。

パールシーから発着する観光船での島めぐりは、変化にとんだ島々の濃い緑と海の色コントラストを楽しむ事ができ、夕方は真赤な太陽が島影に静かに沈み、海面が橙色に染まる様子は、心を奪われる瞬間です。

また、魚の宝庫であり、釣りを楽しむ事もでき、こんなに素晴らしい所で生活している私達は、永久に美しい自然を守って行くことが使命と考えます。



〔鹿子前町より九十九島を望む〕



〔赤崎町より佐世保港を望む〕

◎愛宕神社

神社の境内にあります由来記によると、西暦700年頃から、このあたりを明かり崎「赤崎」と呼び、山頂に火の神軻遇突智神社が奉られました。

1560年頃、赤崎の海辺に奉られていた海の神を現在の境内に移し、二柱の神社を愛宕神社として奉られております。

境内からのまちの景観、佐世保港、九十九島、四方の山々の眺めは素晴らしいものです。春には、つづら折の山路に咲く桜が市街からも望めます。

春分と秋分の頃には祭礼が斎行されます。



〔愛宕神社〕

◎公園が充実している (子どもの遊び場や憩いの場として利用されています。)



〔泉水田公園〕



〔赤崎台第1公園〕



〔赤崎町児童公園〕



〔小島公園〕



〔鹿子前第一公園〕

【4】赤崎地区を支える団体

◎西地区公民館連合会

赤崎地区の公民館は、西地区公民館連合会に所属し、地域で様々な活動や行事を行っています。

- ・小島町公民館（約550世帯） ※世帯数はいずれも
- ・赤崎町一組公民館（約800世帯） 平成19年12月時点
- ・赤崎町二組公民館（約400世帯）
- ・鹿子前町一組公民館（約500世帯）
- ・鹿子前町二組公民館（約450世帯）



◎民生委員児童委員協議会

民生委員児童委員協議会は小島町、赤崎町一組と二組、鹿子前町一組及び二組の5町内会で構成されています。

主な活動としては、ひとり暮らし高齢者などを対象に「ふれあいネットワーク」をつくり、近隣の協力者と日頃の見守りを行っています。

児童に対しては、通学路での登下校時の見守りや「放課後子ども教室」の活動及び安全管理指導に取り組んでいます。



◎赤崎校区老人クラブ

校区内の老人クラブと会員数は次のとおりです。

- ・小島町長寿会 134名 ※いずれも
- ・赤崎一組天寿会 126名 平成19年4月時点
- ・赤崎二組愛老会 130名
- ・鹿子前一組鹿寿和会 55名
- ・鹿子前二組幸寿会 73名

各老人クラブの設立目的に従い、生活を豊かにする活動（シニアスポーツ・趣味文化レクリエーション・学習活動リーダー研修など）、地域を豊かにする活動（友愛訪問ボランティア・伝承世代交流活動など）に取り組んでいます。



◎愛宕中学校育友会

年間を通しての市・県の講習会や市PTA連合会音楽祭に参加しており、その他にも三校会による地域を含めた愛宕地域清掃、西部地区大運動会、球技大会にも参加しています。

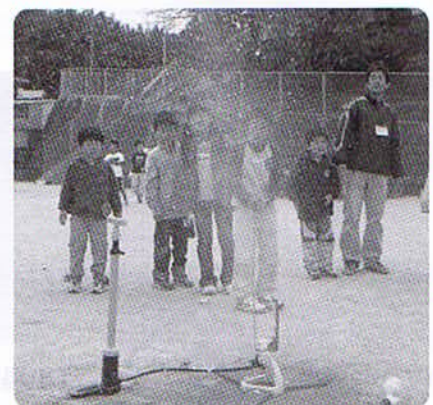
また、平成15年からは、地域、健全育成会等と一緒に、餅つき大会などの活動をしています。



◎赤崎小学校PTA

赤崎小学校PTAは、毎年4月の総会で役員が承認され、年間14回の話し合いをもとに活動しており、例年、主な行事である『赤崎祭』を11月に開催しています。

広報誌「せき心」を通して、活動状況や学校の様子を皆さんにお知らせしています。



【5】赤崎地区福祉対策推進協議会の紹介

どのような団体？

福祉対策推進協議会（略称：福対協）は、地域住民の身近な困りごとを把握し、その解決に向けて住民参加による活動に取り組み、より住みやすい地域づくりを進めるという役割を担った組織です。

赤崎地区福対協は、昭和53年に設立され、構成団体のメンバーを中心に、住民の皆さんと一緒にさまざまな活動に取り組んでいます。

どのような人たちがメンバー？

民生委員児童委員、公民館、婦人部、老人クラブ、育友会、PTA、小・中学校など、幅広い団体の代表で構成されています。

主な活動は？

福対協では、地域が抱えている福祉問題や住民のニーズにあった活動に取り組んでいます。ここでは、主なものを紹介いたします。

ふれあいネットワーク

ひとり暮らしの高齢者などが、地域で安心して暮らせるように、隣近所の方をはじめとした地域住民が中心となり、安否確認や話し相手などのために定期的に訪問しています。

食事サービスボランティア

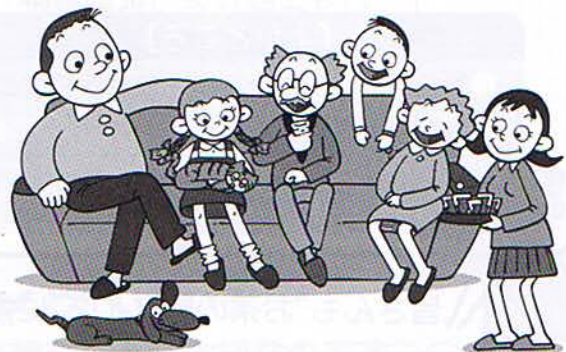
赤崎地区には、4つの食事サービスグループ（赤崎町一組・赤崎町二組・鹿子前町一組・小島町婦人部）があり、ひとり暮らしの高齢者などを対象に食事サービスを行っています。

公民館などでの会食や自宅までの配食などによって、高齢者の地域での生活を支援しています。

その他にも…

消防局と連携してのひとり暮らし高齢者宅の防災調査や、地域子ども教室に参加しての子どもとのふれあい交流などを行っています。

また、年度はじめの総会では、構成員が普段の活動についての情報交換や課題の分析を行うなど、地域に必要な活動に取り組み、安心して暮らすことのできる地域づくりのために努力しています。



これからも、地域の様々な団体が共に連携を深め、一緒に活動していくことでさらに充実した活動につながるのではないのでしょうか。

地域で活動されている団体の情報がありましたら、ぜひお知らせ下さい。